

## 生駒市森林整備方針のあり方についての懇話会 第2回議事録

1. 開催日時 令和5年9月22日(金) 13時半～15時半
2. 開催場所 生駒市コミュニティセンター 203,204
3. 参加者 赤地氏 東氏 泉氏(座長) 磯貝氏 小北氏 松山氏 森岡氏  
(五十音順)  
  
(オブザーバー)  
奈良県森林技術センター 森林管理市町村連携課 荒木課長  
  
(事務局)  
地域活力創生部 岡村次長  
農林課 植島課長 吉岡課長補佐 前川主幹  
  
(受託事業者)  
(株)森林コンサルタント奈良営業所 小林所長 中野部長
4. 会議の公開・非公開 公開 傍聴人数 0名
5. 議題 (1)第1回懇話会の振り返り  
(2)生駒市の森林整備に関する方針等の整理

### 6. 会議記録

#### ○挨拶

(地域活力創生部 岡村次長)

本日は大変お忙しいところ、懇話会にご出席頂き、また平素から本市の農林施策はじめ生駒市にご協力賜り、改めて感謝申し上げます。

この度、森林整備方針を策定するにあたり、本懇話会の方を2月に立ち上げ、第1回の会議では危険木の対応や、里山林の整備の課題について皆様から貴重なご意見を賜ったところである。本日は前回の会議を踏まえ、生駒市として森林整備の方針に関して4つの柱を設け、整理したものを今回ご用意している。後程詳しく説明させて頂くが、それらを進めていく上での課題や解決の主体、優先順位など、皆様からまたご意見を頂戴したいと考えている。森林整備については、森林環境譲与税をはじめ、限られた財源の範囲内で取り組んでいかなければならないため、優先順位を付けて進めていく必要がある。この辺り、議論頂く中で方向性を見出していきたい。

本日の会議の流れとしては、前回から少し時間が経っている関係で、最初に振り返りの方をさせて頂き、その後森林整備方針を整理したものについて座長を中心に議論頂き、内容を

深めていきたいと考えている。来年1月まで、今回含め3回の会議を予定しているが、生駒らしい森林整備方針を作り上げたいと考えているので、引き続きお力添え賜りますようお願いする。

○参加者および事務局紹介

本日所用のため、浅井氏、新居氏、井上氏（副座長）、田中氏、森本氏は欠席。

○議論

（泉座長）：愛媛大学 名誉教授

2月からすると半年以上経過したという事で、皆様お忘れの事も多いかと思うが、また思い起こして頂きながら進めていきたい。

第1回目の時は自己紹介を少し長めにさせて頂き、それぞれ所属している団体の活動など、様々なところを詳しく聞くことが出来た。それらをもって生駒市が今後森林整備方針を立てられるという事になるが、1つの焦点として森林ボランティアの活動がある。生駒市はこれまでも森林ボランティア活動がかなり盛んなところだったと私も聞き及んでいるが、今後どのような形にしていけばよいのかというのは、大きな柱になってくる。この点、今年度は懇話会が3回予定されており、時間が取ればその辺りについても本日より議論を始めたい。

それでは議題の(1)である第1回目の振り返りという事で、森林コンサルタントの中野氏の方から説明をお願いします。

(株)森林コンサルタントの中野部長より、【資料1】のプレゼン説明。

（泉座長）：愛媛大学 名誉教授

森林コンサルタントさんの方から生駒市に報告書が提出されているが、結局何が出来たかということ、危険性がありそうだという箇所を80箇所程度抽出し、調査され、一覧表まで作成している。今後はこの中から現地に行き、場合によっては専門家の方も連れて優先順位等を判定し、それから所有者を割り出し、所有者の方に整備についてお願いします、という話になる。前回はこのテーマだけで議論したが、そういった事が実はここまで進んできており、今年度この作業は粛々と進んでいく。優先順位が決定すれば、来年度以降に事業として業者が入り、危険木の伐採作業に入っていくという段取りになるかと思う。

続いて議題の(2)の方に入らせて頂く。生駒市の森林整備に関する方針等の整理という事で、生駒市の前川氏の方から説明をお願いします。

生駒市農林課の前川主幹より、【資料2】の第1の柱についてプレゼン説明。

(泉座長)：愛媛大学 名誉教授

市の方から4つの柱という事で提示されており、その第1の柱について説明頂いた。これが2月からの延長課題という事になるが、これは他の柱に比べると緊急性がある。前回の懇話会では危険木の判定について議論させて頂いたが、その判定した結果誰が処理するのか、そのお金を誰が出すのかなどをしっかりと整理しないとイケない。判定については森林コンサルタントさんが中心になるとしても、所有者の割り出しなど資料の赤で囲んである課題解決の主体というところが問題になってくる。改めて前川氏の説明について補足をさせて頂くと、道路の危険木については、それが電線に掛かっている場合は電力会社、道路に掛かっている場合は道路管理者、市町村道だったら市町村、国道だったら国という風に管理者が責任主体という形になる。住宅の場合、それが住宅の所有者の木であれば、それは当然生駒市の責任ではなく、森林環境譲与税等は使う必要はない。基本的に個人の方が個人の責任で整備して頂くもので、伐った方がいいとの勧告程度になる。ところがその木の所有者が住宅の所有者と同じでない時、いつ住宅に倒れ掛かるかもしれないという場合に、所有者が割り出せない可能性もあるし、割り出せたとして整備をお願いしてもダメな時に、問題解決の主体、資料の青で書いてある生駒市というものが登場してくる。結構難しい課題が出てきそうだが、その整備に対しては補助金を出す、そのための要綱は今の上ではうまく適用できない可能性もあるので、そういった事に取り組めるように補助金交付要綱の制定・改正というものを挙げておられる。この方針も懇話会を通して出されるのか？それとも市独自で決められるのか？

(地域活力創生部 岡村次長)

懇話会を通して決めていけたらと考えている。

(泉座長)：愛媛大学 名誉教授

では、こうした方がいいのではないかと言わせて頂くようにする。

後は所有者の特定、それから所有者の意向も聞いて、先程の80箇所程度リストアップされているところで、その中にどれだけ市が問題解決の主体として担当するのかというところを、今年度調査していくという流れになる。

課題の(2)については、先程のような形で対策(2)-1は既に終わっており、対策(2)-2は、今後必要に応じて専門家にもお願いするという事である。課題の(3)は、結局予算が無限にあるわけではなく、こういう危険木伐採というのは1本当たりのお金がかかり掛かってくる。なのでいくらでもやれるわけではなく、優先順位を付けてやっていくという事になる。以上が補足的な説明も含めてという事になるが、ご理解頂けたか？

(磯貝氏)：グリーンボランティア「いこま宝の里」 代表

意見を出すところまではいってないが、プロセス・経過がだいぶ飛んでるような気

がする。求めている事はわかるが、生駒市の中での横の繋がり、例えば私はみどり公園課と付き合いが古く、みどり公園課が過去にナラ枯れ調査を行いそのデータを持ってるのは市内に結構あり、ただ危険木だというだけで伐るとなったら先程の費用の話も出てくるし、非常に難しい問題がある。

今までの経験で、先だって道路に枯れた木が被ってきたことをみどり公園課に報告した際は、担当は管理課だと、そこから管理課に回してもらったが、そこは民有地なので一度地主に伐ってくれと依頼すると言うが、それはちょっとおかしいのでは？大きな木が倒れて危険性が高い時に、例えば車の事故が起きたらどうするのかと議論したことがある。民有地の場合は、そういった問題が今後も出てくると思う。住宅の場合も、隣の家から木が出ていても、隣の人は普通は伐らない。そうですかとは言いますが、お金は何十万も掛かるわけなので、しっかり練っていかないと、これ危険木ですというだけではなかなか前に進まないんじゃないかなという気がしている。

(泉座長)：愛媛大学 名誉教授

難しいところはおっしゃる通り。ただいずれにしてもここで必要なことは、管理者が明確だと管理者がやればいいわけで、私共は、どうもその管理の穴があるところ、例えば所有者が不明であるとか、そういったところを森林環境譲与税の公的な管理で乗り出していく、その対象を見付けていく。つまり、セーフティネットを張り、通常の管理では及ばないようなところで、本当に危険なところについては森林環境譲与税を使って整備していく、というように私自身は農林課さんの方向性を理解したところである。

その辺り、農家区長会の皆様方など、何か経験上支障になっているような木の問題とかでお考えはお持ちか？

(森岡氏)：公募市民

数年前の事だが、北の方でそんなに人が通る道路ではないが大木が倒れてきて、友人の農地にも被害が及んだ。その際、道路部分はすぐに撤去されたが、農地部分の木は放置された。1本の木ではあるが、管轄が違うから、農産物の被害にあってもそれは個人の物だからとノータッチである。それは市の仕事としても、また予算を使うのは公共性のあるところというのは、理屈としてはよくわかる。でもその倒れてきたのが住宅だったりしたら大きな事になる。先程の話の倒れた木の持ち主は高齢なおじいさんで、山の管理なんかとてもじゃないが出来ない、それもご近所の方なのでわかる事。わかっているから揉め事にはならなかったが、多分これからそんな話がどんどん出てきて、被害も補償してもらえないような事案が増えるんだろうと思う。とにかく危険なところをこの予算で整備するのは全然問題はないが、ただそれには予算が少な過ぎると思っていて、これではこれから起こるであろうそういった事のカバーは恐らく無理なんだろうと少し希望を失くしている。出来れば被害が起

こる前に何かもう少し皆がちょっとずつの負担で解決出来たらと思う。もう代々管理も出来ないような山を持ってらっしゃる方とすれば、恐らく自分の山の木が大変な事になっていても、手出し出来ないと思う。

(泉座長)：愛媛大学 名誉教授

区長さんが自分の担当するところ、当然個人の家は個人で守らなければいけないが、何か集落とかで危険木などを見回る、またその危険木を伐るように伝えるなどの仕組みはあるのか？

(小北氏)：農家区長会 北地区 副会長

ありません。

(東氏)：農家区長会 南地区 副会長

ないですね。よほど危険な時であれば所有者がわかれば口頭では注意はする。どうしても所有者がわからない場合は、自治会で伐らないと仕方がない。業者に頼むわけにはいかないから。農家はだいたいチェーンソーなんかは持っているので、それでボランティア的に道に被さってきている木などを伐っている。そういう事は地区ではしている。所有者だけでは、これからなかなか管理も出来ないの。

(泉座長)：愛媛大学 名誉教授

例えば今回せっかく 80 箇所程度リストアップされた箇所は、そこには必ず地域があるわけである。その箇所の所有者を割り出すという時に、出来ればその地域の有力な方であったり、よくお世話をしてらっしゃる方、そういった方としっかりコンタクトを取って協力頂くというのは如何か？登記所に見に行き行って調べるだけでなく、今回のこの調査というのが地域にとって良くなるような形のところで協力頂ければ、次にも繋がると思う。この危険木問題については、地域で良くしたい方がいらっしゃるはずで、前回の樹木医とか専門家を入れたらどうだという事に加えて、本日の話としてもう 1 つ地域を巻き込んで、地域の方々と進めていけるような形にしていければ。

(森岡氏)：公募市民

昔はそういう繋がりもあったと思うが、今はその土地が誰のものかは薄っすらしかわからない。今連絡取ろうとしても取れない方、施設に入っている方とか、そういう状態になってきていて、じゃ私が話をしてくるといふ人も少なくなってきた。

(泉座長)：愛媛大学 名誉教授

確かに地域が昔持ってた自分達でやる力というのは落ちてきている。だからと言ってす

ぐに全て市役所をお願いするところ、それでも地域に頑張ってもらわないといけないところ、両方あると思う。

それでは第1の柱については、去年までの調査も含め、今年度引き続き進めてもらい経験を積んでいくという形のところで一旦終わらせて頂き、第2の柱に移らせてもらう。

生駒市農林課の前川主幹より、【資料2】の第2の柱についてプレゼン説明。

(泉座長)：愛媛大学 名誉教授

第2番目の柱として、荒廃している里山林の整備という事である。まず前回も、里山林に竹林を含めるのかどうかといったような議論があったが、今回の整理では広葉樹林だけでなく、竹林も含めるといった形で定義がされた。

課題の(1)-1は、対象範囲を一体どのように決めるのかを今回の懇話会で議論したいと。ちなみにバッファゾーンという言葉は獣害関係からくる概念なのか？少し説明をお願いしたい。

(中野氏)：株式会社森林コンサルタント 業務部長

バッファゾーンについては、前回里山林とはどこを指すのかという話があった際に、泉先生の方から奥山と市街地、その間となるようなところという説明があった。そこを整備する事によって獣害などの被害を抑制すると共に、整備する事で社会福祉団体の方含め、憩いの場などにも活用できると考えており、そういった空間をバッファゾーンと呼んでいる。

(森岡氏)：公募市民

下草を刈ったりして、イノシシが出てこないようにするとか、そういう地域の事か？

(中野氏)：株式会社森林コンサルタント 業務部長

そういったイメージである。見通しをよくするという事。

(森岡氏)：公募市民

荒らしておくとも野生の動物が隠れやすいので、イノシシがすぐ横の畑までできてしまう。ただその間の空き地を綺麗に刈ると隠れるところがないので、山林から出てきにくくなる。6mの空き地があったら人眼に晒されて出てきにくくなるらしく、出来るだけ刈ってくれと言われる。空き地でも刈らないといけない。イノシシが隠れるところを作ってしまうと、畑の横からすぐに作物が掘り起こされてしまう。

(松山氏)：公募市民

そういった空間があれば、危険木の問題解決にも繋がると思う。

(磯貝氏)：グリーンボランティア「いこま宝の里」 代表  
直訳するとどういう意味か？

(中野氏)：株式会社森林コンサルタント 業務部長  
緩衝帯である。

(泉座長)：愛媛大学 名誉教授

バッファゾーンの理解についてはよろしいか？その空間が広ければ広いほど、イノシシなどは寄り付きにくくなる。結局バッファゾーンの設定というのは、鳥獣の撲滅でなく共存であり、もう一度山の方へ押し返すというわけである。そういった緩衝地帯というものを作ったらこれは効果的じゃないかと。里山管理の時に、鳥獣害被害対策という観点を打ち出せば、こういう概念を使うという事も1つある。ただバッファゾーン、鳥獣被害対策という局面だけが里山管理の全てではないわけで、だからこの考え方もうまく使いながら、皆様方の色々な意見もお伺いしたい。

(森岡氏)：公募市民

休耕田が増えて、荒れている。山と田んぼがあって、間の田畑が休耕田になり、イザサが生え、竹藪になり、山になってどんどん広がっている。

(泉座長)：愛媛大学 名誉教授

今農家の方は、電気柵、それから2mとかのネットを張る、というところで、個人の責任において自分のところを守るというやり方をしてらっしゃる。

(松山氏)：公募市民

犬の散歩をしていると、鳥獣被害のための電流柵なんかがたくさんあり、いつも怖いので避けているが、そこが休耕田で荒れているのであればドッグランがあればどれだけいいかともいつも思う。犬を飼ってる人は散歩させる場所、走らせる場所などが悩みである。大阪にも友人がいるが、ドッグランを探して車で結構近隣を走っているのも、もし生駒にそういう場所がたくさんあれば、犬の聖地になるのではないかと思う。

(森岡氏)：公募市民

ドッグランをする以上に休耕田ある。そんな問題じゃないほど休耕田はある。

話は少し変わるが、法人に農業を任すという事は可能なのか？あれだけ休耕田があり、高齢化も進めば田畑が出来なくなる家が目先見えている。それが何丹か集まったら法人にお貸しするというのは出来ないのか？

(吉岡課長補佐)：事務局

法人の方が借りて、農業をやっているケースも生駒市にはある。

(松山氏)：公募市民

貸し農園とかもあるのか？

(吉岡課長補佐)：事務局

貸し農園というか、市民農園という市がやってる施設はある。

(松山氏)：公募市民

庭はそんな畑ができるほどないので、なんか1坪2坪、自分で出来るノウハウを教えたらえたら、野菜でも作りたいなと思う。自分で情報を集めないといけないと思うが、近隣にそういう情報があれば教えてもらいたい。

(吉岡課長補佐)：事務局

中南の方はいっぱいだが、北の方はまだ空いている。光明とか萩原の方にもある。

(泉座長)：愛媛大学 名誉教授

市民農園など、生駒市さんはたくさんあるのか？

(植島課長)：事務局

市民農園は3箇所ある。あと有休農地活用事業というのがあり、それは休耕田で農家の人が貸してくれれば、市が間に入って他の方にお貸しする事業である。

(森岡氏)：公募市民

個人じゃなくて法人っていう貸出先もあるのか？個人にお貸しするのはうちの近所でも聞いてて、それが法人になればもっとちゃんと使ってもらえるかと。というのも、個人にお貸しすると、荒れたままにされるケースが多いと聞く。結局所有者が近所に申し訳ないので草を刈らないといけないとか、それを貸し出し先に何度もプッシュしないといけないとか。だったら法人であれば、草刈りをする人もいるんだろうなと思う。

(植島課長)：事務局

そういうのも検討はしてみる。ただちょっと話を戻して、バッファゾーンの話についてだが、昔は山に松茸を取るとか薪木を取るとかで整備されていて、イノシシなんかは昔生駒にはいなかった。誰かが逃がしたとか、京都から来たとか色んな話はあるが、結局イノシシは生駒で全て捕獲しても山が繋がってる限り、東大阪から来たり、平群から来てしまう。結局



農地を守るための意味も含め、ほとんどが灌木と下草刈りの作業になると思うが、畑と山の境界をキレイに見通せる事でイノシシが近付かなくなり、農地も守られ、耕作放棄地も減っていく。私共は農林課なので、そこに森林環境譲与税を使えば、里山の整備もかねて農地も守れると、一挙両得かと。そこで里山クラブとか棚田クラブとか色々なボランティア団体の方々が活動している中で、場所的にこの辺りがいいなどの意見があれば、市の職員が勝手に決めるより市民の方の意見を聞いて、優先順位の高い効果的などころから整備したいと考えている。

(泉座長)：愛媛大学 名誉教授

どこでも獣害被害は起こっていて、ちょっとした小山みたいなどころでも周囲に農地があって、そこがねぐらになってやられるというケースが都会の真ん中でも起きている。そういう意味では確かにこの獣害問題は農家の方に深刻である。被害者は、現実的には農家の方であるが、そこにバッファゾーンという概念で突っ込んでいっても、バッファゾーンの整備を農家の方でやってくれというのは難しい。先程話をしたように、農家の方は電気柵とかネットを張るのがやれるところで、そこにバッファゾーンを整備しましょうという事になると、これは農家さんからもとても喜ばれるわけである。生駒市さんは農林課であるので、今回の問題提起のバッファゾーンの整備は、生駒市の場合十分にあり得る話だとは思う。ただし、このバッファゾーンの整備に森林環境譲与税を使うという事になると、農業向けじゃないかと、それが森林整備なのかという話は若干出るかもしれない。その辺は考えないといけない。

次に、里山整備という事になると、バッファゾーンを作ればいいという話だけではないと思う。次は山の中に入って行くような話について少し議論をしていくとする。前回も申し上げたが、里山林というのは、戦後マツが多い茂っていたところが燃料革命で放置され、マツ枯れでダメになり、その後に落葉の広葉樹が生えてきてこれも薪や炭の活用がなくなって大径木化し、それが今回ナラ枯れでやられたと、本当にひどい被害になった。そういった山を今後一体どうしていくんだと、ここから実はもう3番目の柱の森林ボランティアの方の話とまさに直結する話になってくる。里山整備といっても誰がやるんだという話になってくる。

それでは、前川氏の方より3番目の柱について説明をお願いします。

生駒市農林課の前川主幹より、【資料2】の第3の柱についてプレゼン説明。

(泉座長)：愛媛大学 名誉教授

先程のバッファゾーンについて、出来れば業者に頼んで刈り払い機や、一部チェーンソーで整備していくというやり方もあるが、これが生駒市の場合にはボランティア団体さんがやって下さるといふ事になれば、これはとても売りになるというか、特色になっていくと思

う。実際に里山を整備され、さらにナラ枯れ木を伐ったりなど色々やってらっしゃるそうだが、それはすごい事で、大変な事だと思う。この辺り、ボランティア団体の方々に色々ご議論頂きたい。遠慮なしに、財源があると思って。

(赤地氏)：いこま里山クラブ 代表

生駒里山クラブは結成から来年で20年程になるが、最初の頃は退職年齢も60歳くらいである程度若い方々が、気持ちも前向きであったが、その方々がもう80歳を超えてきて、かといって次の新しい世代がどんどん集まってくるかというところ、これがすごく難しい。まず里山の整備の基本は草刈りであり、草刈りには刈り払い機を使わないととてもじゃないが出来ない。補助金交付要綱の中には、刈り払い機を使うのに講習会を受けないといけないという条文に入っている。それを守りながらやるが、私はその講習会を受けるのにわざわざ吉野まで1日行って、また現場で練習もして扱えるようになった。それを生駒市でやってくれないかと、去年、一昨年からお願いに行ったが、農林課の方は今一つ乗ってこない。結構値段は高く、1人1万円以上掛かる。今コマツとかいう民間団体が講習会をやっていて、それは天理とか中間辺りにできて、新しく入った人はそこに行ってもらっている。なお、チェーンソーの講習会だと2万とか3万もする。

人材を自分達で育成しようと思うとすごくお金が掛かって、ボランティア団体でそれだけのお金を捻出するというのは大変で、個人の負担も大きい。チェーンソーになると特に今は安全がすごい言われていて、防護服なんかも必要になってくる。その辺りの装備、講習、練習、そういうものの補助があると、非常に負担が少なくて助かる。

刈り払いに関しては、何とか生駒市一般の方にも自分達の活動とか、それから草刈りがどんなものかを知ってもらい、そういう作業が出来る人を増やそうと思い、講習会がダメなら体験会を開催した事がある。1回広報に出したが、来られた方は4、5人と少なく、自治会で草刈りをしなければいけないからとか、それからちょっと庭の草刈りをやってみたいとか、そういう方々であった。結局、そこから里山のボランティアに繋がった人は1人もいなかった。

あと、ボランティアの養成という事で、磯貝氏もご存じの緑の学校がある。緑の学校も何年かやって、結局応募者が少なくなって今年止めてしまった。応募があった頃は、その人達が担い手になっていたが。

(磯貝氏)：グリーンボランティア「いこま宝の里」 代表

緑の学校は15年前ぐらいにスタートした。今のみどり公園課のスタッフと一緒に、我々とかボランティア団体が講師をやりながら。最初の頃は10人、20人は集まっていた。

(赤地氏)：いこま里山クラブ 代表

他のボランティア団体では、奈良市やなんかと棚田クラブもそうなのか、後から人材が補

充されているのを見ると、大阪の方のシニア自然大学とか、そういうところの方が来られているような、それで補充されているような感じがある。何かそういう継続的に人が入ってくるシステムを作る、そして受け皿を作る。高槻市なんかは市が主体になってボランティアを養成して、その人達その後日当をもらって、活動出来るような仕組みが作られてるみたいである。とにかくそういうバッファゾーンを作るなり、市が主になってやるのであれば、高槻市のように何か流れを作らないと、今後このボランティアを継続するのはもう1団体の力では無理だなと感じている。また高齢になると車の運転も難しくなるし、生駒市は絶対車があるので、先がちょっと見えない状態である。若い人がたまに、企業のボランティア経験という事で大阪の方から来るが、1回とか2回で、その後は来られない。なかなか引き止めが難しい。

(泉座長)：愛媛大学 名誉教授

ありがとうございます。今の赤地氏の話はそのものずばりで、全て受け入れという事で生駒市さん如何か？非常にリアルな話と大きな話で、やはり流れを作らなくては行けないと思う。

ちなみに、チェーンソーなどの講習はボランティアの時も必要なのか？

(荒木氏)：奈良県森林技術センター 森林管理市町村連携化 課長

ボランティアでも使うときは必要である。例えば自分の山を自分で伐る場合であれば特別講習は受けなくてもいいが、ある団体に属してそういう作業をするとなったら、やはり講習は受けておいて頂かないと。何かあった時に、講習は受けていたかと言われてしまう。

(赤地氏)：いこま里山クラブ 代表

ある団体からは、ボランティアの時は必要ないと聞いている。その辺りの真実がわからない。

(荒木氏)：奈良県森林技術センター 森林管理市町村連携化 課長

厳密に突き詰めていけばいらないとは思っている。ただそういう作業をするという事は、安全という事をちゃんと学んでますか、という事が前提になってくるので、出来れば受けて頂きたい。

(赤地氏)：いこま里山クラブ 代表

ボランティアに入ってくる方が農家の方であれば、普段自分でチェーンソーを使っている。講習を受けずに使っている方に、講習会に行けと言うのはちょっと難しい。そういう問題も非常に悩ましい。

(荒木氏)：奈良県森林技術センター 森林管理市町村連携化 課長

なぜ特別講習を受けるかというのと、例えば刈り払い機であればそこでちゃんと使い方、どういう時に危ないのかという事を、一通り学習する。チェーンソーについても、特別講習でこういう伐り方をすれば危ない、こういう場合は絶対こういう事をやって下さい、きっちり安全的な事を学ぶ。それが大事である。だからちゃんと学んだ上で、作業して頂くというのがベストである。そういった事をわかっておられる方とわかっておられない方が混在して作業してしまうと、どこかで問題が起こってしまうからかもしれない。

(泉座長)：愛媛大学 名誉教授

必要かどうかは本当に厳密にやっていると色々あると思うが、ボランティアに参加した時に、自動的に免許等の資格が色々取れる、という事をメリットにすればいい。それをメリットにして進めているのが国の緑の雇用制度で、林業の担い手育成という事で1年目にはたくさん資格を取得する、全て無料で取れるという仕組みを国もやっているわけである。生駒市の場合には、ボランティアの育成と確保という事で、行政として非常に重要な位置付けにあっていいと思う。元々生駒市はボランティア活動が非常に盛んなところであり、やはり各市町村はそれぞれ個性を、輝く個性を作っていく必要がある。それでも窮乏という事は前回も色々皆様方訴えてこられたが、ただ生駒市のボランティア団体さんの個のレベルは皆さん非常に高いと思う。そのところで、今の要望事項、悲鳴にも聞こえる要望事項を、基本的に生駒市さんは、森林環境譲与税でそれに支出していく事は当然やるべきだろうと思う。市民の皆様方が自主・自発的にそうやって下さる事は有り難い事で、市は出来る限りありがとうございますと言って、支援させて頂きます、というのが根本的な姿勢であるべき。先程の刈り払い機の特別講習が1万円とか、安いものではないか。ボランティアに参加して下さる事へのお礼みたいなものである。ただ、行政として全額補助がいいのか、2/3がいいのか半額なのかという事は、それは横並びの問題もあるので調整頂きたい。防護服も含めて、無償支給というわけにはいかないかもしれないし、個人のものにしていいのかどうかもあるし、すぐに辞めてしまった場合の対応なども考えて工夫する必要はある。

(植島課長)：事務局

確かな情報ではないかもしれないが、刈り払い機で作業していて怪我した時には保険の対象にならないと聞いている。来年度予算を取って、うちの職員も天理の方へ講習を受け行こうと思っている。シルバー人材センターも全部天理で講習を受けている。なので、先生が仰られているように、ボランティアの方が集まるのであれば、森林環境譲与税を使って参加してもらおうという事も、みどり公園課の課長とも話をさせてもらって検討する。両方の課に関わりがある事なので。

また、私は県の森林環境税が始まった時に、道具の段取りなども全てさせてもらっていて、あの時の補助金の使い方も今に繋がるかもしれない。そちらもみどり公園課の課長とも話

をさせて頂く。

(荒木氏)：奈良県森林技術センター 森林管理市町村連携化 課長

森林環境譲与税については、今年の6月に林野庁から文書が出ており、森林ボランティアの方のチェーンソーや刈り払い機の作業の研修会に使っても構わない、という事が言われている。なので、ある程度の人数がまとまるのであれば、市が主催してやってもいいのではないかなと思っている。それを一旦受けて頂くと、そのままずっとボランティアに流れていくのではないか。

(泉座長)：愛媛大学 名誉教授

ありがとうございます。今ボランティア団体の協議会みたいなものは作っておられるのか？

(赤地氏)：いこま里山クラブ 代表

生駒市ではないが、県の関係ではある。

(泉座長)：愛媛大学 名誉教授

生駒市森林ボランティア団体協議会、みたいなものがあれば。形式的なもので結構ですから。今団体数は？

(赤地氏)：いこま里山クラブ 代表

大きくは3つ。鹿ノ台は入っていない。

(泉座長)：愛媛大学 名誉教授

出来れば市が今回、最終的には赤地氏が仰られていたように、流れを作る。そのためには、ボランティア団体協議会があれば、そこから要望を出すや、また市の方との協議も出来るので、名目的にでも結構なので作られた方がよいかと思う。

(赤地氏)：いこま里山クラブ 代表

協議会でもいいし、何か里山整備団体みたいなもの、バッファゾーン何とかでもいいが、そういう方が義務的なものでなくやりやすいかなと。

(泉座長)：愛媛大学 名誉教授

確かに協議会っていうと仰々しいが、要するに窓口である。どこに連絡すれば捕まるよ、という様なものこと。

先程の市役所が主催する講習会みたいなものは、年に1回なり2回、中身をちゃんと整理

してやっていく。ここでも全て森林環境譲与税で予算化して、実際の企画・運営は他に投げても構わない。また運営には、ボランティア団体に関わってもらった方がいいと思う。カリキュラムも含め、どういった形がいいかを考え、実施し、そこで育ったやる気のある方が捕まれば各ボランティア団体との相性で、いいところに配属して頂くという形は1つあるのではないか。それは赤地氏が言われる仕組み作りになってくるじゃないかという事で、今日のお話をぜひうまく前向きに受け止めて進めて頂きたい。

この点、追加とか何かお考えはあるか？この企画は1つとても重要な事だと思うので、懇話会から何とか形になるようにやっていきたい。既に10年前に下地があるという事であれば、それもうまく活用しながら、今度はもう少しレベルアップを、市の関わりをもっと強くしていくような形でやっていけたらいいのではないか。

ただ、そういう仕組みが出来てきた際に、まだ生駒市の市民の方で参加して下さる方はいらっしゃるか？

(赤地氏)：いこま里山クラブ 代表

先程も言ったように今は定年が遅くなり、色んなそういう催しをしても、これから活動出来るような方があまり参加されないような気がしている。

(松山氏)：公募市民

チェーンソーはどれくらいの力があるものなのか？扱った事がないので、重さは何kgぐらいあるものかもわからない。

(磯貝氏)：グリーンボランティア「いこま宝の里」 代表

小さいものから大きいものもあるが、そんな重いものではない。肩にベルトも通すので、数kg程度。

(松山氏)：公募市民

一般市民はそういう事もわからない。

(赤地氏)：いこま里山クラブ 代表

刈り払い機は女性でも扱える。

(松山氏)：公募市民

そういった情報も教えて頂ければ。女性は端からそんなの出来ないんじゃないと。私は刈り払いと言われてもわからなかったのだ。

なので講習を受けて安全がわかった上であれば、使えるようになるんだなと今思ったところである。ただもう1つあるのは、使えるようになったとして、じゃボランティアで無償

で作業するという気持ちには、申し訳ないが私は個人的にはない。せっかく使えるようになったら、5千円でも3千円でもいいが、自分のやったものがお金になるという事であればやってみたい。

(泉座長)：愛媛大学 名誉教授  
その点は如何か？

(赤地氏)：いこま里山クラブ 代表

先程言った高槻市がいい事例だと思う。そういう講習会を受けて、その人がボランティアに入って草を刈って、日当を貰うという仕組みが出来ている。それで結構うまく回っている団体があるので、その辺を参考に出来れば。確かに大変重労働なので、お弁当代や車代ぐらいはあった方がやりがいがあると思う。

(松山氏)：公募市民

無償ボランティアって、虫のいい話である。

(森岡氏)：公募市民

私も刈り払い機は使えるが、無償で時間と体力を使ってやる気はない。だからボランティア団体さんはよくされてるなあと思いつきながら聞いている。頭が上がらない。

(赤地氏)：いこま里山クラブ 代表

ただ、中には若い女性が1人体験会に来られて、楽しくていくらでも作業できるっていう方もいた。それは涼しい時期ではあるけども。仲間の中でもその作業が好きだという人もいる。刈っていく心地良さとか、そういう自然の中でやる気持ちよさというのはある。あとは人の役に立っているという想い。でもそこにちょっとでも千円でも2千円でも貰えたら、さらに良いと思う。里山整備というだけではなく、定年後の色々な活動として、無理のない範囲で趣味の受け皿として出来たらいいなと思う。

(森岡氏)：公募市民

何か楽しみがないと。ただの重労働で終わるとするのは、とてもじゃないが参加出来ない。

(赤地氏)：いこま里山クラブ 代表

今後どうするか、整備した後に将来楽しみに出来るような方向に持って行ってもらうとか。

(松山氏)：公募市民

ドッグランを作るとか。

(赤地氏)：いこま里山クラブ 代表

そういう楽しみを作るとか、何か収穫出来るもの、野菜とか果物とか。10年計画になっているようなので、その大きな方針を出して頂きたい。それは個人団体では無理なのでその流れを作って頂けたら、もしかしたら家庭にいらっしゃる方でも参加できるような方向にいくかもしれない。

(松山氏)：公募市民

そう思う。楽しそうと思える事が一番の原動力である。何かしんどそうっていうのは絶対人は手を出さない。楽しそう、その上何か身に付くものであれば、またお茶の一杯でも飲む見返りがあるのであれば、友人誘って行こうかな、と思う。

(泉座長)：愛媛大学 名誉教授

ボランティアっていうと無償っていうところが、近年有償ボランティアとていう概念がある。今生駒市のボランティア団体の方々は無償なのか？

(磯貝氏)：グリーンボランティア「いこま宝の里」 代表

助成金は一部頂いており、それで運営している。燃料買ったりとか。基本的には無償である。

(泉座長)：愛媛大学 名誉教授

3千円とか日当はあるのか？

(磯貝氏)：グリーンボランティア「いこま宝の里」 代表

それはない。

(泉座長)：愛媛大学 名誉教授

ここのところはずごく分かれる。赤地氏はどちらの考えか？

(赤地氏)：いこま里山クラブ 代表

里山整備事業で頂いているのはプールして、会の運営が出来る範囲で参加された方に分けている。ただし、一部山麓公園の里山地域の整備をしているが、そこは全くの無償である。



(泉座長)：愛媛大学 名誉教授

先程、お若い松山氏が3千円でもあったらと仰っていたのが決め手になるかもしれない。有償ボランティアという事も検討課題の1つに入れておいてほしい。何となく私は直観として、時期かなという気はしている。王寺町などでも色々試みてきてはいたが、やはり有償ボランティアはこれからの時代だなという感じは、私自身は強まってきている。

(岡村次長)：事務局

無償よりかは有償で、日当をもらいながら、楽しさとセットでなければなかなか今の若い方というのは参加しにくいかと思う。そういうものを打ち出せるような形であれば、担い手作りに効いてくるかなと思う。

(泉座長)：愛媛大学 名誉教授

それでは次に、大きな柱の3の課題の(2)のところ、地域で育む里山事業補助金という既存の補助金について、これは今のところ使い勝手はよいのか？

(赤地氏)：いこま里山クラブ 代表

悪い。悪いからみどり公園課にも話をしている。これはちょっと使い勝手が悪いと。多面的機能という県の交付金が別にあり、そちらの方が絶対使いやすい。

(荒木氏)：奈良県森林技術センター 森林管理市町村連携化 課長

その通りであり、私も実は生駒市の隣の大和郡山市の矢田丘陵で、その森林・山村多面的機能発揮対策交付金を頂いて、大きな間伐をさせて頂いた。私は公務員なので貰わないが、他のメンバーの方はほんのちょっとだがいくらか貰っている。あと、多面的の方は実は資材とか、安全装具とか、そういう部分の補助も頂ける。講習にも使えるので、すごく使い勝手が良いというのは私も実感している。

(赤地氏)：いこま里山クラブ 代表

今の地域で育む里山事業補助金は1セットいくらで、その1セットの中にはいらぬ鎌10丁とか、鉋10丁とか、鋸10丁とかが入っている。それで買えるのがあと、刈り払い機1台とチェーンソー1台と、そんなに決められると非常に扱いにくい。

(泉座長)：愛媛大学 名誉教授

であれば全面的に見直しという事で、使い勝手のいいように。多面的というのは割り合い取りやすいのか？

(荒木氏)：奈良県森林技術センター 森林管理市町村連携化 課長

申込みは出来ると思うが、枠があるので。申込みに対しての枠内での割り振りになると思う。

(泉座長)：愛媛大学 名誉教授

多面的が取りやすいのであれば、計画的にやれば、ある程度取れるかもしれない。しかし多面的というのは結構色々な事に使える。なので、県のそういう補助金と生駒市さん独自の補助金交付要綱をどう住み分けるのかという部分が必要。多面的は何でもやれるので、生駒市さんはボランティア団体さんの育成強化の補助金というような形のところで、先程のような要望を全部入れ込んで、これを拡充する、組み立て直すというような形がいいかと思う。

(岡村次長)：事務局

赤地氏の仰っているニーズも、どうしてもこうしたいというものがみどり公園課の方にもあるかもしれない。一度みどり公園課にも詳細を確認してみる。

(泉座長)：愛媛大学 名誉教授

こういう風な議論になってくれば、リアル化していいと思う。これで担い手育成と里山整備、2番と3番、今日のところはこういった形でよろしいか？

あと、里山整備のところは県の荒木氏の方から少しお話があるとの事である。

(荒木氏)：奈良県森林技術センター 森林管理市町村連携化 課長

特にこういう事をすればというわけではないが、この生駒市は竹林の問題がやはりある。竹を伐採するだけでは、伐採して終わりという事になってしまうので、何とか竹を利用出来ないかなと考えていたところ、テレビで見たが竹をチップとかパウダーにすると、いわゆる生ごみを処理するコンポストに使えるんじゃないかという話があった。そのコンポストも段ボールで囲って入れたらいいというもので、そんなスペースも取らないという話。なので、その方向で発想を膨らせると、ボランティア目線では里山の整備が進み、環境を守るというモチベーションと、コンポストで堆肥になるという材料供給の面がある。あともう1つは、竹をどこかが買って来て、例えば市が買い上げて、その市民の方に配るということも考えられるとしたら、自分達の活動資金、運営資金になる。市民目線で言うと、そういう事を取り組む、コンポストを置いて生ごみを処理するというのは、環境への配慮に参加しているとか、ゴミを通じての環境への意識付けになるとか、あとは市の中での循環的な社会に繋がってくる。あと市役所目線から言うと、持続的な、今流行りのSDGsである。そういうところへの取り組みを示す事が出来るし、もう少し進むと、これはあまり影響ないかもしれないが、生ごみを皆さんで処理してくれる事で、ゴミの量が少なくなり、市役所としてもその分経費が浮く事になるし、市内で循環ができる。ここの市長さんは元々環境省におられた方であり、

環境省絡みでも市長さんがいいと言ってくれそうな気がする。最後にこのコンポストというのは堆肥になるので、例えば皆さんがお家でちょっとしたプランターにでも入れて頂いてお花を育てたり、野菜を育てたり、という事も出来るだろうし、もうちょっと言えば例えばみどり公園課とも協力しながら、どこかの公園の木のところに使ってもら、街路樹に使ってもら、もしくは花壇に使ってもら、というような事も可能じゃないかと。だから、竹を1つの出発点にしても、少し膨らませれば色んな事が出来て、市民皆さんを取り巻いて何かが出来ないかというの考えて頂ければ。もちろんこれをやるにしても課題はあり、誰がどうするかとか、お金の問題とか、資材の問題とか、あと竹を伐ってどこに持って行っとうすればいいんだ、というような話もあるとは思いますが、皆さんがそういうのって良いよねって思ってもらくと、これがちょっとずつ前に進んでいくものである。

(赤地氏)：いこま里山クラブ 代表

今日浅井氏は来られていないが、浅井氏のところは高山地区で有機農業をやっている。トマト作ってジュースなんか販売されているが、連作で具合悪くなって、それで竹のチップを使いたいそうである。そのチップにする機械は、高山にある竹林園にあるという事で、そこに持って行ってやってみると仰っている。それが成功すれば1つの流れが出来るのではないかなと思っているが、そこで問題になるのはチップ化する機械と、そこへ運ぶ運搬の軽トラ。浅井氏のところはトラックを持ってるからいいが、私共は運搬するトラックがなく、いつも借りている。そのチップにするのは素人でも可能なのか？

(磯貝氏)：グリーンボランティア「いこま宝の里」 代表

機械に入れるだけなので問題ない。また、あの機械は大きいが自走式で動く。ただし、あまり遠くへは持っていけないので、園内でしか作業は出来ない。

(赤地氏)：いこま里山クラブ 代表

その辺りの問題もある。一度機械を借りて壊れた、動かなくなったというのがあるので、対策が必要。確かに竹は軽いし、ボランティア団体としては取っ掛かりとして扱いやすいと思う。竹林整備の方が、森林整備よりもやりやすい。生駒市のトレードマークも竹になるのでちょうどいい。

(磯貝氏)：グリーンボランティア「いこま宝の里」 代表

竹林整備は皆さん簡単に思われているかもしれないが、継続性がある。毎年継続しないといけない。だから団体としてはあんまり扱げられない。1箇所、2箇所ぐらいで進めていけないといけない。だけど生駒市はあれだけ竹藪があるんだから、どうしようもない。

(泉座長)：愛媛大学 名誉教授

ありがとうございます。その竹の問題は前回も少し議論になって、やはり生駒市にとって竹林問題は、きちんと取り組み必要があると。それで高山地区を中心とした形で、しっかり取り組もうじゃないかと。そこで荒木氏の方から、竹チップ化の話を提起して頂いた。それで今現実には高山地区の方でシーズとしてチップパーも動いていて、という話もして頂いて、この辺りは今回第4の柱に直結する問題で、とても重要な事。私も高山地区については5, 6年前から2, 3回呼ばれて話をしており、その時も竹林をどうするんだ、竹産業とどう結びつけるのか、そういった事でボランティアで動いておられる方々の話も色々伺いました。その方は市役所の方にも陳情に来られたが、そこで予算化出来なかったという実態もある。そういう高山地区で、竹のボランティア的な動きももっと強めて頂いて、今言った加工から循環までの仕組みが出来たらそれは素晴らしい事で、今後もきっちり取り上げさせてもらうという事で如何か？なので、また情報収集をお願いします。私の方からも有山氏の方に話を聞いてみる。

それでは、第4の柱にいくかどうか。頭出しはしておきたいので、第4の柱、前川氏の方から説明をお願いします。

生駒市農林課の前川主幹より、【資料2】の第4の柱についてプレゼン説明。

(泉座長)：愛媛大学 名誉教授

ありがとうございます。木質バイオマス発電の件は、今どうなっているのか？

(岡村次長)：事務局

生駒市では、地域電力会社として市民パワーという電力会社を立ち上げてはいるが、そこと今後連携する形でバイオマス発電所の誘致の動きが出ている。それが立地出来れば、そういったところにバイオマスとして循環・利活用が図れるかなと思う。

(泉座長)：愛媛大学 名誉教授

もう決定したのか？

(岡村次長)：事務局

今ちょうど着工しかけてるという話は聞いている。恐らく近いうちには、発電所を竣工するだろうと。

(泉座長)：愛媛大学 名誉教授

もう計画は決定していて、着工も？

(森岡氏)：公募市民  
場所は？

(岡村次長)：事務局  
北田原の方である。

(泉座長)：愛媛大学 名誉教授

ちょっと詳細を抑えおいて頂きたい。どれくらいの規模なのか、だいたい木質バイオマス発電は恐らく全国ものすごい苦境だと思う。特に外国から輸入した資源でなくて、国産資源でいくというところはかなり。要するに原材料が集まらない、事業をストップするという事が結構出始めているので、もし生駒市の方でそれをやられるのであれば、原材料確保をどうするのか、この里山整備も根本から前提条件が変わってくるような面も出てくると思う。

(岡村次長)：事務局

市が発電所を建てるのではなく、民間が建てるという事。ちょうど今プレス発表の資料が手元にあるが、去年の6月に元々大東市の方の会社さんが発電所を持っておられて、2号基を生駒市の北田原町の方に設置するという事でプレス発表されている。先程私が申し上げた、生駒市の発電がそこから買うかどうかという話を進めさせてもらっているところで、設置されるのはこちらの会社さんの方である。発電量、出力としては9,980kw、年間発電量約8,100万kwhという事で、だいたい一般家庭の約2万世帯の年間発電量に相当するようである。なので、そういったところに間伐材がうまく使えればという事で、案として資料には書かせて頂いた。

(森岡氏)：公募市民

例えば伐った枝を生駒市の清掃センターへ持っていかなくても、いけるかもしれないという事か？

(岡村次長)：事務局

そういう循環が何か出来ればと思う。

(森岡氏)：公募市民

結構、間伐材も草も始末が大変である。

(赤地氏)：いこま里山クラブ 代表

その通り。回収の仕組みも合わせて出来れば、個人でなかなか運べないので。

(森岡氏)：公募市民

今燃やせないから、全部ゴミ袋に入れて捨てている。それに、捨て過ぎると怒られてしまう。

(磯貝氏)：グリーンボランティア「いこま宝の里」 代表

その会社は阪奈道路を下りたところか？見学に行ったことがある。燃料の補充がすごい難しいとの事。それが順調に稼働するには、それなりに幅広く材料を集めていかないと。間伐材なんてほんの一部の話、あてにならないぐらい。

(泉座長)：愛媛大学 名誉教授

今五條市に発電所が、という話があつて。ここも原木どうやって集めるんだという話があり、チップをどうやって確保するかという事が恐らく大問題になる。

(森岡氏)：公募市民

引き取ってもらえるだけでも助かる。ゴミにしないというのがいい。

(泉座長)：愛媛大学 名誉教授

では第4の柱のところに、最終需要先としてバイオマス発電がどう位置付くのかというのを、次回までに整理しておいてほしい。民間事業であっても、恐らくコンサルとか入ってどういう発電機、どのようにチップをどれだけ確保するのか、全て外国産を輸入するのかどうなのかなどを整理しているはず。出来ればほんの一部でもそういった材料を引き取ってもらえればインパクトがある話で、丁寧に出口として抑えておいてほしい。

それでは2時間が過ぎたが、よろしいか？最後に一言頂きたい。次回以降の期待とか、そういう事も含めて。

(東氏)：農家区長会 南地区 副会長

南地区の農家区長をしているが、森林もさることながら田んぼも荒廃しており、その森林に行くまでの田んぼの草刈りも、高齢者の方なので刈り払い機も使えない。最低田んぼから3mは刈るように言っているが、それでもなかなか刈ってもらえないので、自治会の役員がボランティアで刈ってはいる。それでもなかなか対応出来ず、イノシシの被害もすごい。檻を3基はかけており、年間で20頭ぐらい捕獲するが、そんな状態では山の方まで手が回らないのが実情である。

(磯貝氏)：グリーンボランティア「いこま宝の里」 代表

3番目の柱である地域住民のコミュニティ化という興味あるタイトルを、次回までにある程度纏めてもらえればと思う。ボランティア団体の育成、これは昔から言ってることだが

なかなか我々だけではうまくいかない。ぜひとも市の力沿えを頂いて、何とかうまく進めればと思う。

(泉座長)：愛媛大学 名誉教授

磯貝氏のところにまた聞き取り調査に来られると思うので、大いに鼓舞してほしい。

(松山氏)：公募市民

普段何気なく生活していてこういう話題に触れる事がなかったが、生駒がこういう町なんだというのがわかったのと、ボランティアでこういう風に里山の事を気にかけている方がおられる事、またその中で行政とのやり取りが難しいことがあるというのが、初めて目の前のやり取りで知って、ちょっと市に興味湧いた。

(森岡氏)：公募市民

今後10年後にどうなるのかと薄ら寒い恐怖心で田舎に暮らしている。確かにボランティアの方はすごいと思うが、ただボランティアに頼っているようでは絶対10年後はうまくいかない。人間は欲もあるし、また地域を愛する気持ちもある。何とかその欲と希望を天秤に掛けた状態で、生駒市がみんな豊かに回れるように、ぜひとも市役所の方にたくさんのアイデアを出して頂きたい。私も関係ないではなくて、興味を示していきたいと思う。

(小北氏)：農家区長会 北地区 会長

森岡氏が言われるように、10年後百姓の担い手は全然いない。自分の子供でさえ、百姓はしないという意見が方々から聞こえてくる。米の値段も上がりもしないし下がりもしない。百姓に魅力がない。それに伴い高山の人口は年々減少しており、奈良交通からはバスも止めると言われており、これから大変な時代がくる。行政としても力を入れてもらって、早く夢のある人口を増やすような手立てをお願いします。

(赤地氏)：いこま里山クラブ 代表

今やってる里山整備事業が今年で終わり、来年度からまた新しく生駒市の方で考えていらっしゃると思うが、先程も言ったように担い手がいないのと、今まで整備してきたところの維持が課題である。整備したところを放置すれば、3年で元の状態、5年経てばジャングルのような状態になってくるので、維持しなければ今まで何のために整備してきたのかとなる。その辺りのジレンマが解消出来ないと、次に進めない。

(荒木氏)：奈良県森林技術センター 森林管理市町村連携化 課長

私も吉野郡の山奥で何年も暮らしたことがあるのでよくわかるが、なかなか誰にも頼る事が出来なくなってきて、出来る限り自分の身の回りの事は自分でやるようにしている

が、皆さんの話も聞いてそれは限界に近付いているというのがよくわかった。ぜひ市役所の皆さんもよく考えて頂き、市民の皆さんに寄り添って頂ければなと思う。

(泉座長)：愛媛大学 名誉教授

本日、大変充実した議論をして頂きありがとうございました。いくつか宿題を出させて頂いたが、出来れば頭出しだけでも結構なので、次回懇話会までに深掘りを始めて頂きたい。先程の要綱の問題であったり、補助金の仕組み・制度の問題であったりと。それがそのまま結果に繋がってくる。また何かあれば私もお手伝いさせて頂く。

○懇話会の日程調整

第3回は11月17日(金)の13時半から、第4回は1月19日(金)の13時半からで決定。

○閉会